

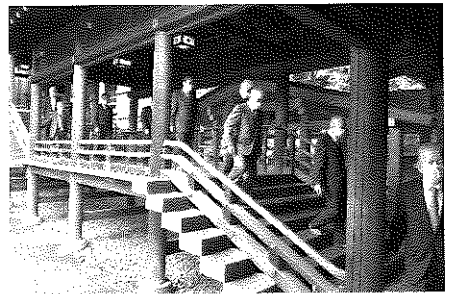
## 各地偕行会会長会同と 偕行社総会について

編集委員会

### 各地偕行会会長会同

10月7日13時からG H市ヶ谷において各地偕行会会長会同がおこなわれた。参加者は各地偕行会等の会長、偕行社志摩会長、森理事長以下理事、監事が参加した。

会に先立ち、各地偕行会会長等が靖國神社に参拝した。



昇殿参拝する各地偕行会長

会同の冒頭、森理事長より「現在偕行社には二つ懸案がある。一つは財政状況で、各種努力をしつつあり、何とか解決しなければいけない。もう一つは偕行社の将来である。偕行社は陸軍将校の会として発足し、戦後は陸軍士官学校などの同窓会的組織として再出発してやがて公益法人となった。あと数年で従前会員は高齢化し同窓会的役割は終わり公益法人の機能のみ残る。元自衛官有志が引き継いでいるがこの先は、じり貧になつて消滅か、今のまま細々と続けるか、第三の道たる陸軍の栄光を継承しつつ陸自幹部のOB会にするかを選択せざるを得ない時代である」との言葉があった。

続いて廣瀬理事、林理事より体制移行に関わる検討状況、「新たな偕行社のあるべき方向について」の説明がなされた。

事務局長山越理事から各地偕行会との今後の協力事業について説明があった。今後偕行社は陸自に対する支援を重視して、安全保障に関する研究と提言、陸上自衛隊に対する必要な協力、英霊の慰霊顕彰に関わる事業を主軸として活動していく。各地偕行会とは、それぞれの地域所在部隊に対する必要な協力、当該地域の英霊の慰霊顕彰等の事業、入会促進事業について協力する。従来の協力事業についてはほぼ継続するが、陸軍墓地等の慰霊祭への参列、自衛隊創立記念行事への参加は偕行社から支援金を援助する協力事業から削除することとした。

その後休憩をはさんで、森山尚直陸自幹部退官者の会（陸自RO会）事務局長から、陸自RO会の設立趣旨について説明があった。

その内容は、陸自を取り巻く環境は従来にも増して厳しく、陸自がその任務を完遂するために、今まで以上に陸自退官者もその役割を果たすべき時代である。防衛省自衛隊の退職

者からなる「隊友会」、海自の「水交会」空自の「つばさ会」があるが、陸自退官者の会は存在していない。また各国退役陸軍軍人との交流も重要であり、幹部退官者が陸自の発展に寄与できることは、人生百年時代にあつて幹部退官者が生き生きとした退官後の生活を送ることは現役幹部の魅力的な指標にもなる。以上のことを踏まえ、陸自幹部退官者全員をもつて「陸上自衛隊幹部退官者の会」を設立するものである。なお本会の効率的かつ常統的な運営のため、「公益財団法人偕行社」との合同を目指すということであつた。

これに対し、いつから陸自RO会は充足するのか、全幹部というが会費はどうするのか、合体した時全国規模になるが支部と各地偕行会の関係はどうなるのか、といった質問があつた。

森山氏から、発足は来年4月を予定している。また会費は有志から寄付という形でいただく。奥村専務理事から、支部についてはこれからの検討だが、各地偕行会が偕行社の支部になるという考え方もある。支部になることについての意見として、半数強に当たる会長からは同意を得

られたが、支部としての事務負担や、陸自RO会そのものや、支部の位置づけなど不明確な段階であるという点で、賛成とは言えないという意味の反対があつた。

### 偕行社総会

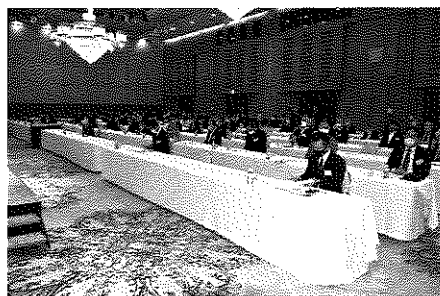
10月8日10時30分よりG.H市ヶ谷瑠璃の間において、小田原潔衆議院議員、山谷えり子参議院議員、宇都隆史参議院議員ほか多数の法人会員、賛助会員・家族会員・一般会員のご出席を得て、令和3年度偕行社総会が開催された。また佐藤正久参議院議員から祝電をいただいた。

開会の辞、国歌斉唱、来賓祝辞などに続いて、奥村専務理事から「新

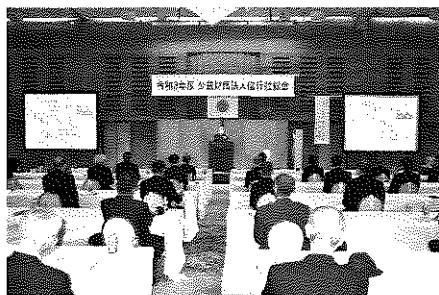
たな偕行社のあるべき方向について」の説明があつた。前日夜の地震の影響で交通が乱れ、若干到着が遅れた参加者もあつた。

ここで総会は終了し、陸上幕僚長吉田圭秀陸将の講話をいただいた。

講話は、陸幕長の個人的な認識、考えを話すとの前提で「時代の大転換期における我が国の安全保障と陸上自衛隊」との演題で1時間以上にわたり質疑応答まで対応された。陸自の置かれている時代の流れと国際情勢の戦略的分析、全領域にわたる戦い方、先端技術が戦いへ与える影響、陸自の取り組むべきことなどについて極めて示唆に富んだ話を伺うことができた。



令和3年度 偕行社総会



陸上幕僚長講話